



シラバス参照

タイトル「**2017年度 観光学部シラバス**」、フォルダ「**2017年度 観光学部シラバス**」
シラバスの詳細は以下となります。



科目名	観光空間計画論		
担当教員	永瀬 節治		
対象学年	2年	クラス	T1
講義室	T-101	開講学期	前期
曜日・時限	火2	単位区分	選必
授業形態		単位数	2
準備事項			
備考			
科目名 (英語表記)	Spatial Planning & Design on Tourism		
授業の概要・ねらい	<p>観光地の魅力は、人々が実際に体験する空間の質とも大きく関わっている。本講義では、観光対象としての地域空間・都市空間を捉え、そこでの豊かな体験を生み出す空間のあり方と、その計画・設計手法等について学ぶ。前半では、観光地としての魅力を高める上で重要な公共空間や回遊性のあり方、その計画・設計手法や実現のための仕組みについて講義する。後半では、我が国における観光空間計画の歩みをたどり、現在の具体的な空間計画・整備活用の事例について、いくつかのテーマ別に取り上げ、魅力的な観光空間の実現手法への理解を深める（ゲストスピーカーによる講義も行う）。なお、本講義で扱う「空間計画」は、主に都市・地域全体を対象とした都市デザインの考え方を観光地に応用するものであり、単体の観光施設（リゾートホテルやテーマパークなど）の計画・設計に関する知識習得は意図していない。</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス：観光と空間計画（計画、設計、デザイン） 2. 観光地と公共空間 3. 「バタン・ランゲージ」の世界 4. 街路のデザイン 5. 広場のデザイン 6. 緑・水辺・オープンスペースのデザイン 7. 回遊性のデザイン 8. 地域の空間を計画・設計する主体と仕組み 9. 我が国における観光空間計画の歩み 10. 観光空間設計の潮流1：地域の歴史・文化資源を活かす 11. 観光空間設計の潮流2：生活空間に受け入れる 12. 観光空間設計の潮流3：広域の観光資源をつなぐ 13. 観光空間設計の潮流4：地域の観光空間をマネジメントする 14. 現代の観光計画を考える（ゲストスピーカーを予定） 15. まとめと試験 		
到達目標	質の高い公共空間を成立させている物的・社会的条件、空間計画上の基本的な考え方や手法、それを具体的なまちづくりのプロセスの中で実現するための仕組みが理解できるようになる。		
成績評価の方法	中間レポート50%、最終試験50%		
教科書	特に指定しない。		
参考書・参考文献	講義の中で適宜指示する。		
履修上の注意・メッセージ	日常生活や旅先などで、積極的にさまざまな都市や地域を体験し、居心地の良い空間、魅力的な場所を受け止める感性を磨いておくことが、講義の理解に役立ちます。		
履修する上で必要な事項			
受講を推奨する関連科目			
授業時間外学習についての指示	毎回の講義で得た知識は、日常的に接する都市空間や、インターネット等で得られた身近なまちづくりの情報と照らし合わせることで、効果的な復習になります（30～60分程度）。		

その他連絡事項



Copyright (c) 2008 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.